

(3) 消防大学校における教育環境の整備

【赤阪会計課長】 それでは、3 つ目の消防大学校における教育環境の整備について議論に入ります。

ここからは、元日本大学総合科学研究所教授有川博先生に御参加をいただきます。よろしくお願ひいたします。

【有川先生】 よろしくお願ひします。

【赤阪会計課長】 それでは、初めに担当部局から資料に沿って御説明をお願ひいたします。

【説明者】 消防庁消防大学校副校長の日高です。消防大学校における教育環境の整備について説明いたします。

お手元の A 4 横の資料「消防大学校における教育環境の整備」を御覧ください。

事業の目的ですが、消防大学校は、消防の最高教育訓練機関として消防職員、消防団員の幹部教育を実施し、全国各地域の消防防災体制の充実強化を図るものです。

事業の概要ですが、効果的・効率的な教育訓練を実施するための ICT の導入、大規模災害対応能力向上のためのシミュレーションシステムなどの整備・運用など、良好な教育訓練環境の維持・整備に係る事業により、消防防災における「人的資源の高度化」を促進し、全国各地域の消防防災体制の充実強化を図っているものです。

創設の経緯は、昭和 23 年に消防講習所として創設され、本科の前身に当たる指導者養成科が開校しております。その後、本科は昭和 28 年から平成 17 年まで行われ、現在は幹部科になっています。その後、消防組織法の改正を受け、昭和 34 年に消防大学校が発足しました。

ここまでの説明の補足として、お手元の補足資料 1 ページ「消防大学校の位置づけについて」を御覧ください。消防組織法、総務省組織令によりまして、消防の事務に従事する消防職員、消防団員に対する幹部として必要な教育訓練をすることが定められており、これが消防大学校の重要な役割、使命となっております。

補足資料 2 ページ「消防大学校の概要」を御覧ください。右上の四角の中の建物概要です

が、東京都調布市に所在し、面積約2万平方メートルの敷地に延べ面積1万9,000平方メートルの施設があります。本館、第2本館、寄宿舍、屋外訓練施設などがあり、62名の教職員で、令和6年度は定員1,572名を入校予定としております。これまでに、総合教育4学科、専科教育8学科、実務講習を合わせまして、累計6万9,000人を超える卒業生を輩出しております。過去15年間を見ましても、全国722本部中709本部の人材を育成しております。

補足資料3ページを御覧ください。「消防大学校と各都道府県等の消防学校の関係について」です。消防学校は全国47都道府県と指定都市である札幌市、千葉市、横浜市、名古屋市、京都市、神戸市及び福岡市の7市、並びに東京消防庁の合計55か所に設置されています。消防学校は、消防に関わる知識・技能の習得を図るものです。一方、消防大学校は、幹部としての指導監督を行うに足る人格、識見及び能力の育成を図ることとされ、消防の幹部育成機関として、全国の各消防本部の将来を担う職員に切磋琢磨させることで能力の育成を図る役割を担っております。また、消防大学校は都道府県及び政令指定都市等の消防学校または消防訓練機関に対し、教育訓練に関する必要な技術的援助、すなわち各消防学校への教官の派遣などを行うことで、消防学校の教育を補う役割も担っています。

冒頭のA4横の資料「消防大学校における教育環境の整備」にお戻りください。中段の予算額につきましては、令和5年度が補正予算も合わせまして2億8,100万円。令和6年度の当初予算が1億9,400万円となっております。

過去5年間の卒業者数は、令和元年度が1,535人、これは資料下段の囲みにありますように、先ほど補足資料で説明しました総合教育4学科、専科教育8学科、実務講習の合計となります。以降、新型コロナウイルスの影響もあり、令和2年度1,141人、3年度1,264人、4年度1,385人、5年度1,395人と、感染対策を行いながら教育訓練を行うため人数を絞って運営している結果となります。

主な事業ですが、教育訓練に必要な資機材等の整備、学生の安全管理対策のための保守点検等として6,300万円となります。主な内訳としましては、備品費が3,000万ほど、消防用ホース、救助用ロープ、電動油圧救助器具などがあります。雑役務費として車両、空気呼吸器、油圧ショベル等の点検整備費が約2,000万円となります。効率的な教育訓練の実施及び感染症対策等のための学生用リモート授業の実施が5,100万円となります。主な内訳としましては、リモート授業の運用管理費用として1,600万円ほど、講義用端末リース費用が教官用、学生用など計240台で2,700万ほどとなります。施設及び設

備に係る老朽化等に伴う修繕・更新等の保全・維持管理が8,000万円となります。主な内訳としましては、本館のLED化工事が3,500万円、外壁補修、屋上防水工事が4,400万円となります。

令和5年度の補正予算が8,700万円となります。主な予算の内訳は、寄宿舍の内装劣化修繕・補修に1,000万円、屋内消火栓改修に1,000万円、本館受電室電力中央監視設備の改修、本館各教室の視聴覚設備の改修、寄宿舍ほかのポンプ設備の改修で6,000万円ほどになります。

お手元の資料4ページを御覧ください。消防大学校の教育訓練を修了した人材は、各消防本部での教育に貢献するほか、各県などに派遣され各地の消防学校の教官として知識・技術を広める役割を担っています。特に、全国から派遣される様々な隊との連携が必要な緊急消防援助隊の災害現地での活動では、消防大学校での経験を有する同一の教育を受けた者が集まることで、活動の共通の理解ができ、また、知り合い同士が活動をともにすることで情報共有が円滑になるなど、現地での災害活動に活かされております。

お手元の資料5ページを御覧ください。「消防大学校における教育訓練（学習の流れ）について」です。事前学習に当たるeラーニングは、事前撮影した映像等の教材を使用して実施します。次に、入校前のリモート授業により座学での講義を行い、入校後は実践訓練のほか演習や話し合いができる場を活用した講義等を行っています。

資料の6ページ、「教育訓練用施設・資機材を活用した各種の実践訓練」を御覧ください。左上の写真が大規模災害対応能力訓練装置、いわゆるシミュレーションシステムによる災害対応訓練です。緊急消防援助隊の指揮隊長コースなどで、応援をする側と応援を受ける側の両方を体験できる訓練に対応しています。中央下段の写真が、危険物火災対応訓練の写真です。石油類が加熱されたことによるボイルオーバー現象を見ることで、発生のメカニズムや輻射熱の影響を体験できます。

7ページの資料を御覧ください。実火災体験型訓練施設、いわゆるホットトレーニング訓練の施設になります。これは、消防活動には延焼している建物の内部に侵入して救助を行う活動、つまり熱環境下での活動が必須となることから、火災性状や基礎的消火理論の理解、注水技術等について実践的に体験しながら理解し習得するための訓練になります。

さらに資料8ページの「模擬家屋における火災原因調査」を御覧ください。火災調査科において、実際に6畳程度の模擬家屋3棟に異なる原因で火災を発生させ、消火後に火災原因調査を実施する現場見分の訓練を行っています。

以上のような充実した訓練施設を効果的に活用した実践訓練を行うことで、消防幹部としての能力の向上を図っています。

消防大学校における教育環境の整備の概要については以上となりますが、有識者の先生方より事前にいただいた主な指摘事項、論点等につきまして御説明させていただきます。

まず、消防大学校と各県指定都市の消防学校等との連携体系についてです。お手元の資料9ページを御覧ください。消防大学校の卒業生は、各消防本部に戻りますと、学んだことを各本部で共有するとともに、各地の消防学校の教官として派遣され、消防学校において教育的・指導的立場で消防大学校での知見を活かした教育を行っています。また卒業生は各消防本部の幹部に就任し、教育指導的な立場で消防大学校での知見を生かしていくとともに、卒業生のネットワークを活用し、緊急消防援助隊などの本部をまたがる活動において寄与しています。また、消防大学校の技術的援助として、各地の消防学校からの要請に応じて、消防大学校が指導者を派遣することにより、各地の消防学校の教育の充実・強化を図っております。なお、令和5年度は合計42校、123回の派遣を行っています。また、消防大学校が中心となって、各地の消防学校で使う初任科教育用の教科書を作成するなど、全国の消防学校教育の水準の維持に貢献しております。

次に、消防業務の高度化、専門化が進む中で、消防大学校における教育訓練の成果をどのように評価、検証し、教育訓練の質の向上を図っているかについてです。

まず、成果につきましては、冒頭の資料の卒業者数の累計やレビューシートの成果目標と実績欄に目標値がありますように、卒業生をできるだけ多く輩出することで、先ほど説明しましたように全国各地の消防学校、消防本部における教育指導体制が強化され、ひいては地域防災力の向上にもつながることから、多くの卒業生を輩出していることが消防大学校の成果として挙げられます。

そして、成果の評価検証と教育訓練の質の向上への取組につきましては、資料10ページ「消防大学校における教育訓練の質の向上への取組み」を御覧ください。基本的な教育方針につきましては、右上の囲みにありますように、おおむね10年置きに実施される「消防大学校における教育訓練等に関する検討会」の検討結果をベースに、消防大学校における教育訓練の方向性を定めます。それに基づき実施した各学科、コース修了後の修了会議において、全卒業生に対する満足度アンケートの結果、これは各講義の難易度、理解度、満足度について5点満点での評価を受けるとともに、よかった科目、よくなかった科目について意見をもらうものですが、これを参考に次の講師選定や科目の構成に役立てるとともに、次期の学科

等の開始前に行う企画調整会議におきまして、アンケート結果や消防庁の災害対応での教訓や課題、右下の囲みにありますが、全国消防学校長会を通じた各消防学校のニーズ、要望調査の結果や、左下の囲みにあります各消防本部への個別聞き取りによって得られた課題、要望などを取り入れた形で、次年度の教育訓練実施要領を策定して、教育訓練の内容、入校・受講資格は必要とされる消防の階級や現在の役職、これまでの実務経験や職歴など、及び定員等を定めています。

さらに消防庁の要望や最近の災害対応における教訓・課題、各消防学校のニーズ、全国の各消防本部の消防長からの意見等については、比較検討して需要があるものは特に特別講習会として開催して、開催後に意見を聴取し、その後の学科や実務講習のコースの企画に発展できるかどうかの検討を行っております。

本事業により、教育訓練環境の維持・整備を図るとともに、御説明したような外部有識者を含む検討会の開催、各学科等修了後の修了会議、企画調整会議などの取組によりまして、外部の声を的確に反映することで、消防大学校における教育訓練成果の評価・検証を行い、教育訓練の質の一層の向上を図っております。

なお、これらの事項に関しましては、レビューシートの記述を分かりやすく整理・修正し、公開をしてみたいと思っております。

最後となりますが、一者応札の改善の取組についてです。消防大学校における調達では、主に教育訓練に必要となる特殊な設備、資機材等を調達するための供給元が少ないのが実情であり、加えて夏季・冬季における短期の休校期間を除き年間を通じて学生が入校しているため、実際の納期や施工可能期間が限られることなどから、結果として一者応札が多くなる傾向があります。このため、概算見積書を提出したが応札を見送った業者等への聞き取り調査結果も踏まえ、一者応札改善の取組として、競争性をより一層向上させるため仕様書の見直しや充実を図ること、公告期間を十分に確保すること、また、参入可能業者を把握し広く調達情報の周知を図ること、複数者が入札に参加できるよう準備期間及び施工期間を十分に確保すること、入札参加資格等級AからDを拡大するなどの対策をとっております。

消防大学校における教育環境の整備についての説明は以上となります。

【赤阪会計課長】 ありがとうございました。

論点につきましては、今の担当部局からの御説明でも言及のございましたとおり、1つ目としましては、消防業務の高度化、専門化が進む中で、本事業の成果をどのように評価・検証し、教育訓練の向上にあたり、どのような課題があり、どのような工夫をしているか。ま

た2つ目として、契約において一者応札が多く見受けられるが執行は適切に行われているかというものを上げさせていただいております。

それでは、議論に入らせていただきたいと思います。御発言のある先生方は挙手にてお願いをいたします。

西出先生、お願いします。

【西出先生】 丁寧な御説明どうもありがとうございます。

私はちょっと頭の中で混乱してしまして、ロジックモデルとかを見ていると、やはり教育の質の話、すなわち、こういうeラーニングをいろいろやって参加者がどうのこうのって議論があるんですけども、予算は設備工事の話がほとんどですね。ですから、読み手としてこちらがその関係性をどう捉えていいのかと。タイトルを見ると、教育環境の整備事業なので、予算の話として整備の話でいいのかな。多分ここは経常経費が入ってないんですね、きっと。だから、その予算の中での整備の話であるならば、それにフォーカスした議論、それでロジックモデルを書けっていうのは、これまたつらい話ではあるので、その話を深めるつもりはないですが、少なくとも整備についての話で議論していくことになるのかなと思うんですね。もしこの様々なロジックモデルの話を主体として議論するなら、経常経費の議論もしないと関連が読めてこないところがあるんですね。そういう中で、この辺をどう整理させてもらったらいいいのかというところを教えてくださいたいというのが1点目。

2点目としては、一者応札の話が出ているのでちょっとお聞かせいただきたいのですが、参考見積りをもらった業者さんにそのまま落ちている場合、落札している場合が割合としてどのぐらいあるのか。その辺、もしそれがあまりにも多いようであるならば、見積りをとる段階での問題というのがもしかしたらあるのかなとか、蓋然性として考えられるかなと思うんですね。

3点目のコメントとして、多分ほかの方が申し上げることになるのかなと思うんですが、やはりロジックモデルを教育の質として捉えても、やはり初期アウトカムと長期アウトカムというような、完全に対象の属性が違うので、こういうものを一連の流れの中で見るということのはどう考えたらいいいのかというところを非常に疑問に思っています。3点目はコメントとして発言させていただきました。

以上です。

【説明者】 御指摘のあった1点目ですが、ロジックモデルにおいて、やはり予算の中ではほとんどが、先ほど先生がおっしゃったように、施設整備の費用になっている中で、ロジ

ックのアウトカムとしては卒業生の合計人数といったところに結びついていくというよう
な形になっていて、また経費全体の話が出ていないという御指摘のありましたとおり、なか
なか分かりにくいところになっております。

消防大学校といたしましては、なかなかこう数値で測れる成果というものが、実際にかか
ったコストからして、先ほど御説明しましたとおり、卒業生をたくさんつくることが求めら
れていて、それによって地域防災力を向上させるという関連になっていることと、そのため
にはハード面の整備が欠かせないというところで施設整備をしております。実際に受入れ
の要望は多数あるところですが、寮のキャパシティというところが実際にはござ
いまして、その入寮できる人数がハード的にもう制限されてしまうという実情がございま
す。これはもう施設面の課題でもありながら、卒業者数や、あとはその事業内容の環境がや
はり教育の質に影響すると考えておりまして、このようなロジック立てになっているとこ
ろでございます。

【西出先生】 それがあある場合は、まさしく今制限なり限界があるところを今回の整備に
よってどれだけ改善されて、これによってどれだけの参加人数なり収容なりキャパが増え
るのかというロジックをここで書くべきではないでしょうか。

【説明者】 おっしゃるとおりだと思います。

施設の整備に関しましては、教育の質の中身の話でアンケート調査をとっているという
話をしましたが、あわせて、施設の管理・運営に関してもアンケート調査、これは自由
記述の形でとっているんですが、それらも踏まえて、教育に関しては教育のアンケート、施
設の管理・運営に関してはそちらのアンケートの結果を基に、御紹介させていただきますと、
例えばいい意見ですと「いつも細かいところまで清掃等が行き届き気持ちよく過ごすこと
ができました」、こういうのが非常にいいことなんですけども、悪いところだと「敷布団が
薄く腰が痛い」とか「布団が硬く臭いも若干気になる」とか、そういう意見を学生のほうに
出してもらって、每期、每期出してもらった中でそれを施設の改善にも結びつけるというよ
うなことをやっております、その教育のほうとそれから施設の整備のほうと相まって学
生の満足度を上げていきながら入校者を増やしていくという取組をしているということど
す。

【西出先生】 お気持ちは十分伝わりますので。まあ書き順の問題として、やはり読み手
として何をこのレビューシートから学べばいいのかとか理解したらいいのかというところ
が非常に分かりにくいと私は思うんですよね。お気持ちは重々分かります、その改善の話と

してつながっていくというところがあるので。この辺の工夫を今後においてお考えいただけたらいいかなと思います。

また、2点目についてお聞かせいただければと思います。

【説明者】 2点目の関係ですけれども、その参考見積りをとった業者の落札率ですが、非常に高い率になっております。ただ、もちろん公告を出しておりますので、それを見て参加する業者もありまして、詳しい数字が手元にないんですが、入札の3割から4割程度は必ずその参考見積りをとったところ以外の業者が参加しているという状態かと思います。

【西出先生】 参考見積りは何者ぐらい、1者しか取らないんですか、やっぱり。

【説明者】 必ず3者以上取るようにしています。

【西出先生】 取っているということですか。それで、その3者のうちの1者に落ちている確率が高いという御説明ですね。

【説明者】 そうということです。

【西出先生】 はい、分かりました。

【赤阪会計課長】 佐藤先生、お願いします。

【佐藤先生】 今回の西出先生の第1点目のコメントにも関わるんですが、多分この事業、このレビューシートに出ている予算は、別に消防大学校の予算の全体ではなくてほんの一部、いわゆる施設整備費だけですよね。恐らく残りはもちろん教官の人件費から光熱費からとあると思うんですが、この辺りは別会計、多分、総務省、消防庁の中の予算から別扱いなんでしょうか、それとも消防庁の予算込み込みになってしまっているから切り出せない。つまり端的に言うと、この教育を提供するためにこういう訓練を提供すればいい、消防大学校としては本当は幾らぐらいのお金が、人件費込み込みでももちろん光熱費込み込みでかかっているって、これは分かるんですか。これ、公会計の問題になると思うんですけど。

【説明者】 予算につきましては、消防庁全体の中でこの分が消防大学校だという額はきちっと分けられておりますし、支出も消防大学校限りにおいて支出するような形になっておりますので、その辺りは霞ヶ関にある消防庁とは完全に分けられた状態で予算というのが確保され、使っていくという形になっております。

今回のレビューシートの対象以外のものとしますと、教育に関わるものとして、予算上は諸謝金というんですが、その諸謝金が大体1,400万ぐらい。それから、それに関わる旅費が150万ぐらい。電気代、水道代、もろもろの経費が2億円ぐらいありまして、非常に設備が大きいものですから、電気代とか水道代だとか、常時もう200人ぐらいが中で生活

しておりますので、非常にその辺りは多くかかっているところでございます。

【説明者】 補足させていただきます。ありがとうございます。

職員の人件費につきましては、消防庁の全体の予算の中でついておりますので、今申しましたのは職員の人件費を除く部分の予算ということでございます。

【佐藤先生】 ありがとうございます。

区分経理ができてないので、全体像が多分ちょっと見づらくなっているというのと、恐らく光熱費とかこういったものは別に事業ではないので、こういう行政事業レビューシートには載ってきていないのかなと思います。まあ事業の定義の仕方なんですけど、消防大学校の経営というのを事業だと思えば、本当はこういったものが入ってきてもおかしくなかったのかなと。大学もそうなんですけど、運営交付金を私たちはもらっていますが、経常的な経費の部分は施設整備と違うので、やっぱり本当はそれをとらまえて全体の大学の経費になって、それぞれどれくらいかかっているかを見ていくという、区分経理をしていくという形になると思うので。何が言いたいかという、要するにこのレビューシートからだけではこの訓練プログラムに係る経費の全体像が見えづらいなと思ったということです。

あと、もう一つ大きな話で、事前勉強会でも議論があったような気がするんですが、長期のアウトカムで卒業生が1万7,887名でしたっけ、これを多分目標として考えられていると思うんですが、今後、人口が減少していけば当然のこと消防職員の数も減っていくはずですよ。恐らく量的に今の人員を維持するということ自体が困難になってくるはずなので、もう地方なんかは多分既に困難になっているはずなので。だとしたときに、そろそろこの人口減少を見据えたときに、じゃあどうやって量の減少を、質、つまり技能であれ技術であれ、こういったものでカバーしていくのかということ、これをそろそろ考えるべき時期に来ているんじゃないかなと思います。特に消防大学校というか、東京は横に置いておいても、地方はやはりこの問題が深刻、消防団員なんていませんよね、もう。なので、ここをどうしていくか、何か方針とかあるんですか。

【説明者】 ありがとうございます。

まさに人の問題ですけども、消防職員はこれからまた大分減ってくるところに入ってくると思うんですけど、今のところはまだそれほどの減少はなく、10年前と比べましても若干の右肩上がりにはなっているところです。あと、消防大学校の希望が高いというところが実はございまして、非常に倍率も高くて、むしろ枠を広げてほしいという要望があります。もともと16万7,000ぐらいの消防職員の中で大体入校できるのが1年に1,500

0人ぐらいという本当に限られた受入れしかできない施設ということで、もともとの定員を非常に絞っているところがありましたので、あまりその人手不足による影響がそれほど受けにくい。むしろ、本部によっては4人出したいけれども県の調整で2人にされているというような声も上がってきておりまして、教育をしてほしいというニーズは非常に高いものがあると思っております。各本部、非常に苦しい中で人を回しているというのは本当にそのとおりなんです、その中でも教育については重きを置いていただいて、消防大学校はやはり一倍以上の要望で運営させていただいているところでございます。

【佐藤先生】 ありがとうございます。

いや、消防大学校の定員がもともとその消防職員全体に比べて少ないので、いまだに競争的だというのは分かるんですが、くどいようですが、現場はこれから少ない人数でどうやって回していくかを考えなきゃいけない時代に入ってきたときに、今の訓練のプログラムは、多分今の人員がいることを前提に、マンパワーがいることを前提に訓練というのが行われていて、そのマンパワーがあるからお互い協力関係を持って、先ほど言われましたネットワークを使う。でも、これからこの現場の人数が減っていくときに、その中において多分こういう消防大学校で訓練を受けた人たちは、少ない人員をどうやって回していくのか、場合によっては、連携するパートナーがいなくてどうするのかという、これを考えなきゃいけない時代になってくるはずなんです。そのときは、やっぱり何か技術で補うか、一人当たりの技能を高めるかで対応するしかないんで、その関係というのを見据えないと、今の消防大学校としての定員が満たされているのはそれはそうなんですけど、現場で人が足りないときの人手不足を前提にした訓練の仕方と、人が余っているときの訓練の仕方は全然違うと思うので。この辺りをやっぱり見据えなきゃ、その辺りを考えなきゃいけないのかなというのがコメントです。

【説明者】 ありがとうございます。大変貴重なお話で、実情のところでありまして、本当に教育内容の部分に関わるところでございまして、教育内容の検討の中でやはりそういったいろんな本部の人が足りないところに対する指導内容というのをどのようにしていくか、人が足りている本部とそうでもないところと、実際にやっていく内容についても検討しながら教育内容を検討してまいりたいと思っております。

大変貴重な御意見ありがとうございます。

【赤坂会計課長】 先生方、コメントシートの御記入もお願いいたします。16時半を目途に回収をさせていただきます。

有川先生、お願いいたします。

【有川先生】 3点ほどちょっとお話ししたいと思います。

1点目は、事前勉強会で話したことで、事業目的と事業概要との整合性が十分とれていないのではないかという話については、今回、大分改善してもらったんですが、この事業内容の記述は、事業概要とそれから現状・課題の両者に分散記述されているために、やはりシートを読んだだけでは事業の目的と手段の関係がなかなか読者に分かりづらい状況になっているので、整合性が分かるようにさらに検討をお願いしたいと思います。

特に事業目的の3にあります自主防災組織に係る調査研究とその成果普及につきまして、調査研究がなぜこの分野についてだけ行うことになっていて、どのような調査研究が行われて、その成果普及をどのように図っているのかが全く分からない状況なので、その点を明確にしてもらおう。明確にしていいただければ、場合によったら、それも成果指標に必要なってくるかもしれないので、その点、検討していただきたいと思います。

2点目は、同じように成果指標の設定と成果評価の工夫改善なんですが、これも事前勉強会で申し上げたところではあるんですが、頂いた資料の10ページにありますように、黄色で塗ってあるような形で、卒業学生の満足度アンケート調査あるいは全国消防長による大学校で得られた成果についての聞き取り調査、さらには全国消防学校長会に対するニーズ調査と全国の消防長に対する評価・要望についての聞き取り調査が行われていて、これらのアンケート結果やニーズ要望等に対する調査結果について、それを次の政策にどう反映したのかなどについて、これらを成果指標や事業評価に生かす工夫が文章として記述体としてはあるんですが、指標として設定する工夫がさらに必要なのではないかと思います。

それから、やはり前回、事前勉強会で話ししました大学校と各地にあります消防学校との連携について、9ページで資料を新たにづくっていただきましたけど、これでかなり分かりやすくなったんですが、先ほどの各委員からの御指摘と関係するんですが、消防大学校は大変人気があるというんですが、確かに消防大学校の片側通行のいろんな技術的援助は見えるんですけど、各消防学校の実態が見えなくて、片側通行で消防学校と大学校との間のどういうふうな連携や情報交換が行われるのか。今後を見据えたより効率的な消防教育訓練にとっては、やっぱりこれは学校間が連携して一体として、有機的に教育訓練を進めていくのが非常に効果的、効率的ではないのではないかと思いますので、それらについて事業の内容に工夫していただくということも検討していただきたいというのが3点目です。

あとちょっと細かいんですが、これまで議論のあった一者入札の改善の問題や、あるいは

補正予算の全額ないしは大部分の繰越しに対する予算の計画的執行については、事前勉強会で申し上げたとおりでありますので、ここではもう繰り返しません。ぜひ検討していただきたいと思います。

【説明者】 貴重な御意見ありがとうございます。

まず、1点目にありました事業目的との整合性、特に3点目、調査研究等の成果、研究とその成果普及等の記載の部類につきましても、しっかりと内容が分かるような記載にするように検討してまいります。

また、2点目が評価のほうですね。どのように評価されたものが反映して、その結果どうなったのかというところが、確かに分かりにくいというか、しっかり書いてないところがございますので、こちらについても評価シートへの記載等について改善してまいります。

また3点目、学校との関係での、一方通行ではない連携の関係についての工夫というところにつきましても、検討して記載等をしっかりとしてまいりたいと思って、実際にやられている協力関係について、そちらの観点から学校側の協力関係についても記載できるような形でまとめてまいりたいと思っております。

ありがとうございます。

【有川先生】 ありがとうございます。

【赤坂会計課長】 瀧先生、お願いします。

【瀧先生】 様々な御整理どうもありがとうございます。

私から2つございます。1つは、主に短期目標のアウトカムのところを見ての感想なんです。前回の御説明の中で、基本的に結構、施設のキャパシティーフルフルでやっています。なので、ある意味、もう施設を大きくするかほかの施設を借りないといこの数字は増えないような要素もあるのかなと思っているときに、民間企業で目標を掲げるときにキャパシティーフルフルのところを目的にすると、なんか旅館を経営しているというか、何というか、単に安定稼働したらオーケーになってしまう要素があるなと思ってまして、それはある意味、何というか、創意工夫を遠ざけてしまうような要素があるなと思っています。もう少し何らか、今回参考資料2でいただいたような満足度に近い指標は入れるべきだと、有川先生もおっしゃっていましたが、思っております。

少し極論を申し上げますと、例えば訓練の前後で、この消防団員、特に幹部職員のeNPSをとる。これが多分、私が経営者としても民間企業でやるんだとしたら、この実際の訓練といいますか体験を経る前と後で、ある意味その体験をコントロール群として、消防団員の

幹部の間でのネットワークが充実するということはこの件のすごく重要な側面だと思っています。何もその場で実際に受けた訓練の価値だけではなくて、その後もこの国の消防を支えていこうと思えるような仲間たちをつくることにより大きい価値を置いているんだと思っています。民間人のセンスからするとそこは、例えばお互いに支え合える人たちがいるという満足度なり感覚というのは、私たちは会社とかの中だと e N P S とかいろんな指標を取ることで代替したりしますので、これはいきなり極論なのかなと思うんですが、御検討されてみてはとは思っている次第です。

あとは、これは佐藤先生もおっしゃっていたことに近いんですが、かなりこの件ってハードウェアの話が多くて、そのソフトウェアって別にコンピューターのソフトに限らずですが、何か取組にお金を使うとか、そういうことをもっと考えられてもいいのではと思いました。これも民間の極論ですけど、例えば最近では会社の中で使える SNS のサービスとかあるわけですし、これは消防団員の方々の中で全国的に使えるようなサービスにお金を払ってみるとか、これは多分許容できないと思うんですが、訓練中の飲み会にお金を出すとか、そういうものだって先ほど言ったような団員間のネットワークに価値を置くのであれば、立派な指標といいますか追うべきメソッドになるんじゃないかと思っています。

大分極論から申し上げてはいるんですが、このような考え方について、ぜひコメントをいただければと思います。以上です。

【説明者】 大変貴重な意見、ありがとうございます。

本当に訓練の前後でしっかりとした効果の確認をしていく、意識の変化を捉えていくところは非常に大切だと思います。また、御指摘がありましたように聞き取りの中でも、やはり各本部からは優秀な人としてきた中で、全国から集まった優秀な人の中では実はまた順位がついて、できるだけ失敗してもらって、そこで失敗をしてもらう経験をして帰ることで失敗を許容できる指導者として各地で教育指導者になってもらうという取組から、やはり集まっていただいてお互い支え合った経験がまた戻ったときに、30人いれば30倍の知恵となって相談してやっていくというところを、非常に皆さん、この消防大学校の得難い成果として、本当にやっている訓練や知識だけではなくて、その失敗できる環境、自分のところから離れているので安心してできることと、そのときに助け合ったネットワークというのが生涯続くというところで、その人のつながりがまた人のつながりを生んでいくということで、ネットワークでどんどんつながっていくというところが非常に魅力的なところですので、2点目におっしゃっていたサービスというかそういった事業にお金を使ってよ

りいろんな体験をさせてあげる取組というのは本当に貴重な御意見だと思っております。

大変貴重な御意見、ありがとうございます。

【赤阪会計課長】 まだお時間ございますので、御質問等あればお願いいたします。

有川先生、お願いします。

【有川先生】 では、先ほどはしよった予算の執行の話をちょっと伺いたいと思います。

令和5年度のこの補正予算の、これ8,700万ですかね、この金額については繰越したのでしょうか。

【説明者】 全額繰越しております。

【有川先生】 全額繰越しですか。どういう要求内容だったのでしょうか。

【説明者】 これ全て施設整備にかかる経費でございます。具体的には、電気設備の改修でありますとか、屋内消火栓の改修ですとか、本当に建物の設備ですね。一部、教育に関わるものとしては、各教室の視聴覚設備の改修なども行っております。

以上です。

【有川先生】 頂いた資料の教育環境の整備、1枚目の主な事業の3ポツに書いてあるこの令和5年度補正予算の8,700万という金額は、まさに今のお話なんでしょう。これは執行ベースで書いてあるので、実際、補正で要求したのと同じ内容の執行が行われたという理解でよろしいのでしょうか。実行予算ではもうちょっと違う使い方をしたのかどうかを伺っているんですが。

【説明者】 大きな事業ですと、入札で行う場合、入札の差額等が出る場合がありますので、それに関しても、非常に建物も多くございまして、設備が老朽化しているということで、その改修費用等に有効に活用させていただいているところでございます。

【有川先生】 今年度からのレビューシートでは、過去の補正予算と繰越しの状況がなかなか見えにくい形になったんですが、過去のレビューシートを遡ってみると、過去数か年度の数字しか分からないんですが、それでも過去数か年の数字だけでもなんか似たような状況がちょっと見えるので、つまり、全額繰越しかあるいはかなりの規模の補正予算の繰越しが繰り返されていますが、このやり方だと計画的な予算執行が非常に危ぶまれるんですが、その辺のところは必ずしも消防大学校だけの傾向ではないので、全省的にいろいろ悩ましいところがあると思いますが、補正予算をつけてそれが全額ないしは大幅な繰越しを繰り返す構造になっていると、本当に予算の計画的な執行がちょっと危ぶまれるので、消防大学校としては、この補正予算全額繰越しのこういう状況に対して、計画的な執行のために何か

工夫されていることはあるでしょうか。

【説明者】 補正予算につきましては非常に助かっている面もございまして、こういった面で助かっておりますかといいますと、契約の相手方を決めるのに一定の期間がどうしてもかかってしまって、入札の仕様書を検討して公告をかけて入札して落札者を決定するというところを、補正予算がつきますとそれが幾分かでも前倒しができるということで助かっているところもあります。

全ての日程が前に前に来るような形になりますので、先ほども申し上げましたとおり、仮に入札差額が出た場合等には、もうその時点でその額を使ってまたどこかを直すとか、そういったこともできますので、そういった形で補正予算に関しては計画的に有効的に活用することを心がけております。

【説明者】 補足させていただきます。

予算の有効活用ということでございますので、今課長からお話もあったとおりでございます。まず1つ目の工夫としましては、可能な限り早期に予算執行すると。年度の初めに調達をしまして、そうしますと年度内を通じて入札差金ですとか出てまいりますので、その執行の残を有効活用するという取組をしております。もう一つは、庶務課で一元的に予算執行しておりますので、教務部等々なるべくその情報を共有して、執行の残額を常に把握して明らかにしておくという取組をしております。せっかくついた予算ですので有効活用することに努めております。

以上でございます。

【有川先生】 もう1点だけ確認したいんですが、その補正予算による前倒しというのは、入札まで前倒しするんですか、契約までも前倒しするんですか。どこまで前年度のうちにやるんですか。

【説明者】 大きい契約になればなるほどそうなんですが、官報公告して50日間公告にかけないといけないというような事業がどうしても出てまいりますので、この期間は事業としては全く進まないわけです。そういったところを年度の前に、年度明けてすぐ入札みたいな形でスケジュールして実施するようにしております。

【有川先生】 最後にコメントなんですが、やはり本当に必要な事業だったら、当初予算で組まなきゃいけないはずなので、補正予算になってやっと確保してそれを前倒しというんですが、そうすると翌年度の当初予算の要求からそれがちゃんと落ちているのかどうかその辺のところ、もう回答は要らないんですが、ぜひ計画的な予算執行にさらに留意してい

ただければありがたいと思います。

【赤阪会計課長】 ほかにございますでしょうか。

よろしいでしょうか。

それでは北大路先生から有識者の先生方のコメントについて主なものを御紹介いただいた後、取りまとめ案の御発表をお願いいたします。

【北大路座長】 今コメントがありましたが、卒業生の満足度アンケート調査、全国の消防長による大学校で得られた成果、聞き取り調査ですね、それらからニーズ調査などをなされているのはよく分かるんですが、それをどう活用しているのか、アウトカムにどうやって反映できているのかというところが見えてこないということです。

先生方皆さん共通に書かれているのは、収容人数、キャパが限られているのに、収容人数をアウトカムにするというのはもう限界があるのではないかと。実際には長期アウトカムとして卒業者数を挙げていますが、量的指標から質、例えば人材育成、能力向上、それからほかの先生はネットワークの拡大というようなことをおっしゃっていますが、そういった内容にそういうこの改善が何らかの効果を生むであろうアウトカムというのがあるはずなので、そちらに切り替えるべきであるという、これは全部の先生方の共通の御意見です。

それから一者応札が多いことについては、御説明がありましたが、やはり原因の分析と対策が必要だという御意見が4人の方からありました。

以上、主なコメントはこの2点ですね。

あと、事業目的と事業内容の整合的な書き方というのを、ぜひコメントがあったように整理し直していただかないといけないかなと思います。分かりにくい、事業目的、手段の関係が分かりやすいように書き直すべきじゃないかということです。

というわけで、取りまとめのコメントを2点に絞りました。収容人数が限られている以上、長期アウトカムには教育の質や幹部職員のネットワーク形成など改善可能なアウトカムを選ぶべきである。2つ目として、一者応札が多い原因の分析と対策が必要であると。御説明はありましたが、書いてないから、書いていただければということです。

以上です。

【赤阪会計課長】 先生方、よろしゅうございますでしょうか。

それでは、特に御異論ないようでございますので、今、お取りまとめいただいたコメントのとおりとさせていただきたいと思います。活発な御議論ありがとうございました。

では、先生方からの御指摘を踏まえて担当部局からコメントございましたらお願いいた

します。

【説明者】 大変貴重な御意見ありがとうございました。

今、いただきましたアウトカムとしては、量的な指標ではなく質といったアウトカム、幹部のネットワークの形成ですとか、教育によって得られたものを成果にしていくという、ちょっと新たな視点を消防大学校としてはいただけましたので、これを基に指標を組み立てていきたいと思っております。

2点目の一者応札の分析と対策につきましても、十分、考えてやっているところでございますが、十分な記載ができてなかったところがありますので、それにつきましてもしっかりと説明できるように、分析した結果とその対策についてしっかりと整理してまいりたいと思っております。

ありがとうございました。

【赤阪会計課長】 ありがとうございます。

本日予定をしておりました議論はこれにて全て終了いたしました。

最後に総務省行政事業レビュー推進チーム副統括責任者の武藤官房政策立案総括審議官より御挨拶を申し上げます。

【武藤官房政策立案総括審議官】 御紹介ありました総括審議官の武藤でございます。

本日はお忙しい中、長時間にわたり貴重な御意見賜りまして、本当にありがとうございました。また、北大路先生、毎回お取りまとめをいただきありがとうございます。いろいろ議論を伺っておりまして、どうしてもやはりロジックモデルのつなぎ方であったり指標のとり方であったり、いろんな厳しい、また刺激的な御意見をいただきました。

やっぱりこのシートを埋めようと思うから、少しどうしても無理してしまうところもあって、そもそもEBPMの取組というかレビューシートの取組というのは、この仕事は何のためにやっているのかというのをもう1回考え直すことで、そのためにでは具体的に何をすればそこに結びつくのかというのを一から考え直すいいきっかけになっていると思います。緒に就いたばかりとは申し上げませんし、時間もかかっておりますが、徐々に徐々にではありますが、いいものにしていくべく今後とも頑張っていきたいと思います。今後とも引き続き御指導、御鞭撻をよろしくお願いいたします。

以上です。ありがとうございました。

【赤阪会計課長】 以上をもちまして予定の次第は終了いたしました。

御出席いただきました有識者の先生方におかれましては、長時間にわたり御議論いた

きまして、ありがとうございました。本日いただきました貴重な御指摘につきましては、今後の事業の点検や改善に当たりまして十分に反映してまいりたいと考えております。

本日の議事の模様、それから取りまとめコメントにつきましては、準備が出来次第、総務省のホームページに掲載をさせていただきます。

今後とも総務省の行政事業レビューの取組につきまして、御指導のほどよろしくお願いをいたします。本日は大変お忙しい中、誠にありがとうございました。